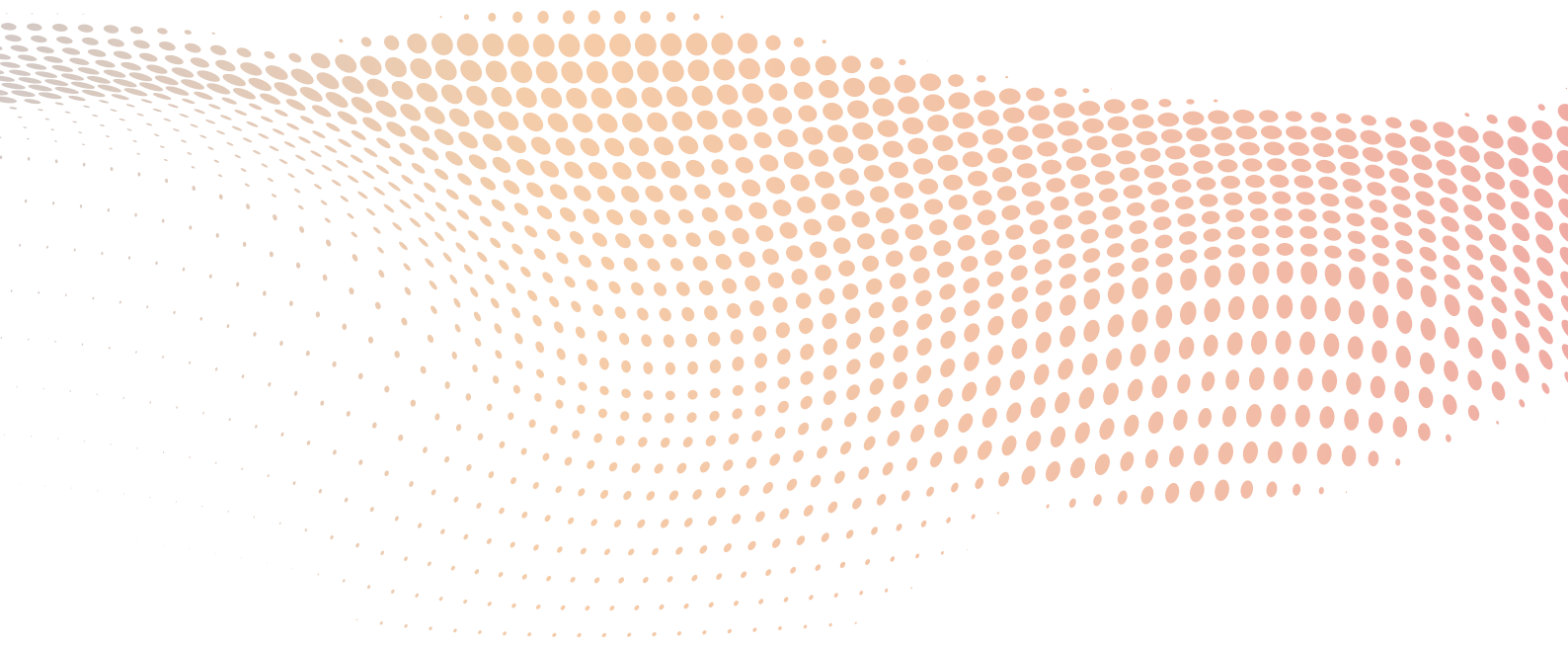




Kitami Institute Of Technology

CENTER FOR REGIONAL COMMUNITY

北見工業大学

社会連携推進センター

年報 第21号 2022年度

【巻頭言】

次なる 10 年へ向けて！

本学の研究シーズの社会実装化と

大学発スタートアップ事業の創出を目指して



北見工業大学
社会連携推進センター
センター長 藤井 亨

2022 年度社会連携推進センター年報の発刊に際して、一言ご挨拶を申し上げます。

本年は、社会連携推進センター創立 30 周年を迎える節目の年となりました。2022 年 12 月 14 日には、日頃大変お世話になっております産学官金の関連機関の多くの方にお集まりいただき、創立 30 周年記念式典、フォーラムを開催させていただきました。

本フォーラムでは、社会連携推進センターの「次なる 10 年へ向けた課題」をテーマに、これまでの活動を振り返り、これから 10 年先を見据えた課題について、ご登壇・ご参加頂きました皆様方から大変貴重なご意見、叱咤激励を頂戴致しました。

さらに、国立大学法人北海道国立大学機構（小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学）の社会・産学官連携機能の推進を担う「オープンイノベーションセンター」との連携により、三大学の知見を融合させたオープンイノベーションの拠点としての役割も増えてきております。

その中で、本学が持つ高度な工学・理学の研究技術シーズを俯瞰して、地域社会の発展に寄与できる仕組み（社会実装化させる上での「課題発見～モデル構築～課題解決」に向けた一連の取組み）を地域の様々なステークホルダーの皆さまと連携（協創）して推進していくことが大きな課題であります。今後は、本学の研究シーズと社会（企業）ニーズとのマッチングに向けたイベント開催等の取り組みに力を入れて行きたいと考えております。

また、政府が「スタートアップ元年」を掲げる様に、全国の多くの大学で、大学発ベンチャー起業に向けた支援活動が進められております。

本年は、大学発スタートアップ事業の創出を目的として、JST「研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム 大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援」2022 年 6 月～2028 年 3 月に「共同機関」として参画しました。

次なる 10 年へ向けて！その第 1 歩として、本学の研究シーズの社会実装化と大学発スタートアップ事業の創出を目指して行きたいと考えております。

ぜひとも地域の皆様には、社会連携推進センター及び、北見工業大学における教育・研究活動を知っていただき、活用いただきたいと切に願うとともに、今後とも皆様のご指導、ご支援を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

社会連携推進センター年報目次

【巻頭言】

「次なる 10 年へ向けて！ 本学の研究シーズの社会実装化と
大学発スタートアップ事業の創出を目指して」

社会連携推進センター長 藤井 享

1. 2022 年度活動状況

1) 事業計画及び事業報告

2022 年度 事業計画 1

2022 年度 事業報告 2

2) 運営組織

スタッフ 6

客員教授 6

産学官連携推進協力員 7

産学官連携推進員・推進協力員合同会議オブザーバー 8

3) 共同研究等

共同研究・受託研究報告 9

共同研究件数の内訳 10

共同研究受入一覧表 11

4) 産学官連携活動

交流イベント等出展状況 19

5) 知的財産活動実績

発明届出・国内特許出願・国内特許登録件数 24

6) 北見工業大学発ベンチャー企業の創出 25

7) 社会連携推進センター創立 30 周年記念事業 26

8) 各種会議報告 28

9) 活動日誌 30

2. 付録

・センター関連規程

・技術相談申込書

1. 2022 年度 活動状況

1) 事業計画及び事業報告

2022 年度事業計画

1. 共同研究等外部との連携事業

- 1) 北見工業大学知的財産センターとの連携による新技術の発掘を行う。
- 2) オープンイノベーションセンター機能を通じた地域ニーズの掘り起こしを行う。
- 3) 研究シーズと地域ニーズとのマッチングを図り、地域ニーズの解決へとつながる研究活動への支援を推進する。
- 4) 地域振興に繋がる共同研究、受託研究、奨学寄附等の事業の推進を図る。

2. イノベーション創出に関する事業

- 1) 北見工業大学が有する教育・研究を通じた地域産業活性化に繋がる産学官連携事業を推進する。
- 2) 地域の特徴を色濃く反映した研究に取り組む北見工業大学の4つの研究推進センター（環境・エネルギー研究推進センター、冬季スポーツ科学研究推進センター、オホーツク農林水産工学連携研究推進センター、地域と歩む防災センター）と、プロジェクト研究推進センターの2つのユニット（近未来保健情報技術特区開拓ユニット、特異な自然景観の発掘・予測研究ユニット）の研究力向上に向けた支援を行う。
- 3) 産学官連携支援機関との連携・協力により、新技術、知的財産等の創出を図る。
- 4) 各省庁（総務省、文部科学省、経済産業省、農林水産省、国土交通省等）が取り組むイノベーション創出に向けた各施策を考慮した活動を推進する。
- 5) オープンイノベーションセンター機能を活かし、小樽商科大学や帯広畜産大学との連携・協力による地域課題解決に向けた新技術の創出を図る。

3. 教育事業（社会人、学生）

- 1) 産学官連携事業を活用し、地域に生きる人材の育成を推進する。
- 2) 若者の地域定着に向けた学生を対象とするセミナー等の企画・実行を推進する。
- 3) 地域の大学、行政機関、産業界および産学官連携支援機関等が開催するセミナー等への連携・協力を図る。
- 4) 小樽商科大学や帯広畜産大学との連携・協力によるリカレント教育を推進する。

4. 融合事業の推進

- 1) 地域の大学、行政機関、産業界および産学官連携支援機関等との連携・協力事業を推進する。
- 2) 小樽商科大学、帯広畜産大学の産学官連携事業との連携を図る。

5. 産学連携事業に係る広報活動の推進

- 1) 北見工業大学の産学官連携活動の更なる発展を目指し、広報活動・情報発信の充実を図る。
- 2) 産学官連携支援機関をはじめとする公的機関等が開催する各種会議やマッチングイベントへの積極的な参加を図る。
- 3) 北見工業大学の地域の特徴を踏まえた教育・研究活動を伝える広報媒体の企画・実行を推進する。
- 4) オープンイノベーションセンターとの連携・協力を図った広報活動を推進する。

6. 社会連携推進センター運営にかかる事業

- 1) オープンイノベーションセンターの機能を担う社会連携推進センターの運営および施設運営の体制・整備を推進する。
- 2) 地域の産学官連携活動従事者や産学官連携支援機関との情報共有の場のあらたな構築や既存

の情報共有の場への積極的な参加を推進する。

7. その他関連する事業

1) 社会連携推進センター創立 30 周年事業

2022 年度は社会連携推進センターの設置から 30 年となる。北見工業大学の社会貢献活動の更なる発展を目指し、社会連携推進センター機能強化に繋がる事業を実施する。

2) 上記 6 項目の他、地域に生きる大学である北見工業大学の社会貢献活動に関わる事業を推進する。

2022 年度事業報告

2022 年 4 月、北見工業大学は、小樽商科大学、帯広畜産大学と経営統合した。三大学の互いの強みを連携して行う商農工分野融合研究を企画・推進し、「知の社会実装」の実現を目指す研究拠点である「オープンイノベーションセンター（愛称 ACE（エース）」が設置された。北見工業大学社会連携推進センターには、ACE の担当部署が設けられた。社会連携推進センターは、従来からの取り組みに加え ACE が目指す「知の社会実装」の実現に向けた産学官金連携活動の強化・推進活動も担うこととなった。

1. 共同研究等外部との連携事業

科学研究費助成事業等から発生した研究シーズの普及と地域ニーズの発掘を目的として、共同研究、受託研究、奨学寄附金等を通じた事業推進を図った。また、地域ニーズから研究シーズへと繋がる活動を北見工業大学が持つ 4 つの研究推進センター（環境・エネルギー研究推進センター、冬季スポーツ科学研究推進センター、オホーツク農林水産工学連携研究推進センター、地域と歩む防災センター）と、2 つの研究ユニット（近未来保健情報技術特区開拓ユニット、特異な自然景観の発掘・予測研究ユニット）との連携、および客員教授等の協力の下で推進した。

1) 共同研究の実施

①共同研究実績 117 件（共同研究相手先地域別：道外 64 件、道内 23 件、オホーツク管内 30 件）

②オホーツク管内を対象とする共同研究の研究分野別件数

（環境：13 件、ライフサイエンス：6 件、社会基盤：3 件、エネルギー：2 件、情報通信：2 件、製造技術：2 件、その他 2 件）

2) 北見市産学官連携推進協議会との連携による共同研究の推進 1 件

①オホーツク産和種ハッカの潜在的認知症予防効果

3) オホーツク新エネルギー開発推進機構（ONEDO）との共同研究の推進 3 件

①スマート高炉スラグ微粉末の活用による CO₂排出低減型低炭素コンクリートの配合システム開

②クラスレートハイドレートメタン貯蔵性に関する研究

③道内（北見市）スマートコミュニティの IoT デジタルの利活用によるエネルギー・ベストミックス導入に関する研究

4) オープンイノベーションセンター機能を活かした研究プロジェクトの企画推進 2 件

①北方系小果実・生薬原料成分の機能性評価と食品開発を目指した社会実装へのアプローチ

②十勝地域の冬季観光を活性化するためのジュエリーアイス出現予測と連携したデータ駆動周遊モデル提案システムに関する基盤研究

5) 経済産業省産学融合拠点創出事業「チャレンジフィールド北海道」での共同研究推進 3 件

①生産空間の維持形成に資する物流基盤整備

②ビックファーマーズと共創する植物由来資源利用活性化

③道内広葉樹の資源管理と効率的活用を目指した DX 推進

6) 北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）「研究開発助成事業」での研究推進 2 件

①ソーセージ用改質羊腸の開発および非破壊品質評価

②健康長寿社会実現のための疾患罹患リスク予知関連「新規指標」の探索

- 7) 科学技術振興機構「研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）トライアウト」での研究推進1件
- ①チタン製品への高耐久性抗菌・抗ウイルス皮膜簡便形成技術の開発

2. イノベーション創出に関する事業

北見工業大学の研究シーズ活用による地域産業活性化に向け、各産学官連携推進事業への参画および新技術、知的財産等の創出を推進した。

- 1) 国立大学法人北海道国立大学機構オープンイノベーションセンター運営への参画
①管理運営部門、②データ統合・ICT利活用部門、③研究推進部門、④知的財産部門、⑤ビジネス開発部門
- 2) 経済産業省産学融合拠点創出事業「チャレンジフィールド北海道」への参画
- 3) 国立研究開発法人科学技術振興機構「研究成果展開事業大学発新産業創出プログラム（START）」大学・エコシステム推進型スタートアップ・エコシステム形成事業への参画
- 4) 北海道科学技術審議会北見・網走地域懇談会（7/28開催）
- 5) 各種委員会への参画
（国）国立研究開発法人科学技術振興機構産学コーディネーター育成プログラム委員会、国立研究開発法人科学技術振興機構産学官連携ジャーナル発行推進委員会
（道）北海道科学技術審議会、北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）研究開発助成事業審査委員会
（オホーツク管内）公益財団法人オホーツク地域振興機構「食に関するミニ補助事業」審査委員会、オホーツク新エネルギー開発推進機構、北見市技能普及実行委員会、北見地域企業立地促進協議会、北見市中小企業振興審議会、北見市指定管理者候補者選定委員会
（大学等）山口大学知的財産教育研究共同利用拠点運営委員会、立命館大学 RARA 学生フェロー審査委員会
（団体等）産業クラスターオホーツク会員

3. 教育事業（社会人、学生）

地域産業への貢献を目的とし、産学官連携ネットワークを活用した社会人の育成や地域に生きる人材の育成に向けた学生教育の充実を図った。

- 1) 社会人教育
①「令和4年度 HACCP・食品安全管理プログラム」（10/2-2/2、全12回）
②「地域型 DX 活用ビジネスの構想と社会実装のための基礎講座」（10/26-2/11、全7回）
小樽商科大学、帯広畜産大学との「リカレント教育講座」の一環として実施
③「北見未来創発プロジェクト」事業にサポート機関として参画（11/26、12/17、1/21、2/18、3/4）
- 2) 学生教育（主として北見工業大学地域マネジメント工学コースを対象）
①アントレプレナー人材育成
・各務茂夫氏（北見工業大学客員教授、東京大学産学連携本部事業化推進部長・教授）
・合田剛氏（北見工業大学非常勤講師、株式会社ゼロワンブースター取締役）
・森本淳志氏（北見工業大学非常勤講師、株式会社日本政策金融公庫さいたま支店国民生活事業統括）
・田中恵次氏（株式会社要代表取締役）
北見市産学官連携推進協議会「起業家育成支援セミナー」として実施（12/8開催）
②地域志向人材育成
・根本英希氏（北見工業大学非常勤講師、株式会社 Wi11-E 代表取締役、北見工業大学 OB）
・土門亨氏（北見工業大学非常勤講師、株式会社クリア代表取締役、北見工業大学 OB）
- 3) 国立研究開発法人科学技術振興機構「研究成果展開事業大学発新産業創出プログラム」

(START)」大学・エコシステム推進型スタートアップ・エコシステム形成事業でのアントレプレナーシップセミナー3件

①「大学発ベンチャー・アントレプレナーシップセミナー」(10/9、11/25、12/12)

4. 融合事業の推進

大学、市町村、公設試、包括連携協定機関等との連携の強化に向け、これら機関等との定期的な情報交換の実施、事業企画および協力を行った。

1) 北見市産学官連携推進協議会

①「地域を彩る食物語」への協力(1/11～16開催)

②「起業家育成支援セミナー」への協力(12/8開催)

2) 北見市技能普及実行委員会

①「食の技能普及講習会」への協力(2/21開催)

3) オホーツク産学官融合センター

①事務局会議を実施(12回/年)

4) 美幌町との連携強化

①包括的連携協定キックオフシンポジウム開催(7/30)

②連携探索会議を実施 隔月(8回/年)

③連携推進事業の企画・実行

連携活動パネル展(4件)、教育(美幌町高齢者教室「明和大学」、美幌町交通安全部会視察研修)研究(調査、情報交換)、学生ボランティア(3件)、美幌町審議会委員会(5件)、インターンシップ(1件)

5) 陸別町との連携強化

①陸別町社会連携連絡協議会(2/16)

6) 北海道中小企業家同友会オホーツク支部との連携強化

①連携プログラム委員会の実施(3/3開催)

7) オホーツク地域エネルギー環境教育研究会(OE3)との連携強化

①エネルギー環境教育の実践活動(10回/年)

②地域イベントへの支援活動(5回/年)

③再生可能エネルギーに係る道内先進事例の視察研修(8/29-30)

8) オホーツク新エネルギー開発推進機構(ONEDO)との連携強化

①公開講座「ドウスル脱炭素～地域から始める脱炭素への取組～」への協力(11/23開催)

5. 産学連携事業に係る広報活動の推進

地域の特徴を活かした教育・研究・社会貢献を推進する北見工業大学の産学官連携活動強化を目的に、北見工業大学の存在感向上に向けた広報活動を行った。北見工業大学の各種刊行物の発行支援および社会連携推進センター刊行物の発行とホームページの充実を図った。産学官連携支援機関が発行する刊行物の積極的な活用やマッチングイベントへの積極的な出展・参加を推進した。

1) 各種イベント・媒体への出展・参加

①北海道 理工系大学・高専及び公設試新技術説明会(国立研究開発法人科学技術振興機構)

②イノベーション・ジャパン 2022 大学見本市(文部科学省・経済産業省)

③第12回産学連携・新技術展おおた研究・開発フェア(大田区)

④アグリビジネス創出フェア 2022(農林水産省)

⑤ビジネス EXP02022 北海道 技術・ビジネス交流会(北海道・北海道経済産業局他)

⑥異業種交流展示会メッセナゴヤ 2022(愛知県・名古屋市・名古屋商工会議所)

⑦オンライン版ネットワーク交流会(シーズ提供セミナー)(川崎市産業振興財団)

⑧地域を彩る食物語パネル展(北見市産学官連携推進協議会)

- ⑨地域を彩る食物語「地元食材活用講習会」
（北見市産学官連携推進協議会、北見市技能普及実行委員会）
- ⑩第6回帯広畜産大学 産学官金連携交流会 mini～エネルギー編～
- ⑪北海道スマート林業 EXP02023（スマート林業 EZ0 モデル構築協議会・北海道）

2) 刊行物等の企画・実行

- ①北見工業大学広報誌オホーツクスカイ全企画・編集（発行：2回/年）
- ②社会連携推進センター概要更新（12/14）
- ③社会連携推進センター年報（発行：1回/年）
- ④社会連携推進センターニュースレター（発行：3回/年）
- ⑤社会連携推進センターホームページ

6. 社会連携推進センター運営にかかる事業

社会連携推進センターの効率的な運営に向け、組織体制や情報共有の強化および施設環境の更なる充実を図った。

1) 組織体制

- ①社会連携推進センター運営会議（4回/年）
- ②社会連携推進センターミーティング（25回/年）
- ③北見工業大学社会連携推進センター推進協議会（1回/年）

2) 情報共有

- （オホーツク管内）
- ①北見工業大学産学官連携推進員・協力員合同会議（11/22開催）
- ②オホーツク産学官融合センター事務局会議（12回/年）
- （全国）
- ③第33回国立大学法人共同研究センター等教員会議（9/1-2開催）
- ④第33回国立大学法人産学連携センター長等会議（10/7開催）

7. その他関連する事業

1) 社会連携推進センター創立30周年記念事業を実施した。

- ①記念式典・フォーラム（12/14）
- ②パネル展（12/9-14）

2) 運営組織

◆スタッフ

社会連携推進センター	センター長 工学部	(兼任) 教授	藤井 享
	センター教員 工学部	教授	内島 典子
	センター教員 工学部	准教授	三枝 昌弘
事務局	研究協力課長		柴田 俊成
	研究協力課長 地域連携係		山本 至
	研究協力課長 産学連携係		松家 奈津美
	研究協力課員 産学連携係専門職員		斉藤 由紀子
	事務補佐員		木村 朋恵

◆客員教授

氏名	現職名	職務内容	期間
各務 茂夫	東京大学大学院工学研究科 産学共創推進本部 副本部長	・産学官連携事業に対する指導・助言等	2022. 4. 1～ 2023. 3. 31
吉田 芳春	吉田国際特許事務所 所長	・提案特許の評価・選別、知財戦略等 ・社会貢献へのコミット、手法指導等	2022. 4. 1～ 2023. 3. 31
三井 良一	一般社団法人北海道発明協会 知財コーディネーター	・大学の知的財産の発掘、権利化、活用及び管理等 ・知的財産活動の推進、指導及び助言等 ・外部機関との知的財産に関する連携等	2022. 4. 1～ 2023. 3. 31

◆産学官連携推進協力員

独立行政法人中小企業基盤整備機構 北海道本部	北見オフィス所長	小澤文宏
北見商工会議所	オホーツク産学官融合センター長	竹中秀之
一般社団法人北見工業技術センター運営協会	技術支援課長	大友秀之
公益財団法人オホーツク財団 北海道立オホーツク圏地域食品加工技術センター	研究課 研究員	小林秀彰
地方独立行政法人北海道立総合研究機構	北見農業試験場研究部長	岩崎暁生
北見市	商工観光部工業振興課 産学官連携係長	川西康裕
網走市	観光商工部商工労働課長	北村幸彦
紋別市	産業部商工労働課長	高橋秀明
置戸町	産業振興課商工観光係長	早坂卓
訓子府町	農林商工課長	大里孝生
佐呂間町	農務課長	中村直樹
津別町	産業振興課長	迫田久
美幌町	総務部政策課長	沖崎寿和
大空町	産業課長	作田勝弥
遠軽町	経済部商工観光課長	長原裕一
斜里町	産業部商工観光課長	河井謙
小清水町	産業課長	畔木雅之
湧別町	商工観光課長	松下一彦
興部町	まちづくり推進課長	長嶺毅
雄武町	産業振興課長	安井雅憲
滝上町	まちづくり推進課まちづくり推進係主事	宇佐見卓伯
清里町	企画政策課まちづくりグループ主事	長坂尚樹
西興部村	産業建設課長	小崎稔勝

北 洋 銀 行 北 見 中 央 支 店	統括副支店長	山 下 則 幸
北 海 道 銀 行	北見支店副支店長	岡 田 直 人
北 見 信 用 金 庫	地域金融支援部地域金融支援課 主任調査役	松 田 剛 一
網 走 信 用 金 庫	地域振興支援部地域振興課 課長代理	佐 藤 亮 介
遠 軽 信 用 金 庫	融資管理グループ経営支援部門 上席調査役	中 山 幸 司
日 本 政 策 金 融 公 庫 北 見 支 店	融資課長	船 生 賀 仁
日 本 政 策 金 融 公 庫 旭 川 支 店	中小企業事業融資課長	五十嵐裕也
帯 広 畜 産 大 学	産学連携センター長	岡 田 繁
東 京 農 業 大 学	生物産業学部自然資源経営学科 教授	菅 原 優
日 本 赤 十 字 北 海 道 看 護 大 学	准教授	村 林 宏
北 海 道 開 発 局 網 走 開 発 建 設 部	地域振興対策官	榊 原 佳 広
北 海 道 新 聞 社 北 見 支 社	一般	成 田 一 貴
公 益 財 団 法 人 北 海 道 科 学 技 術 総 合 振 興 セ ン タ ー	研究開発支援部長	伊 藤 征 也
網 走 測 量 設 計 協 会	副会長	高 橋 徹
一般社団法人北海道中小企業家同友会	オホーツク支部長	田 村 友 朗

◆産学官連携推進員・推進協力員合同会議オブザーバー

経 済 産 業 省 北 海 道 経 済 産 業 局	地域経済部産業技術革新課 課長補佐	茂 木 雅 人
オ ホ ー ツ ク 総 合 振 興 局	産業振興部商工労働観光課長	一ノ関弘祐
公 益 財 団 法 人 北 海 道 中 小 企 業 総 合 支 援 セ ン タ ー	オホーツク支部長	佐々木雅章
北 見 工 業 大 学 生 活 協 同 組 合	専務理事	田 端 一 徳

※産学官連携推進員・推進協力員、合同会議のオブザーバーについて

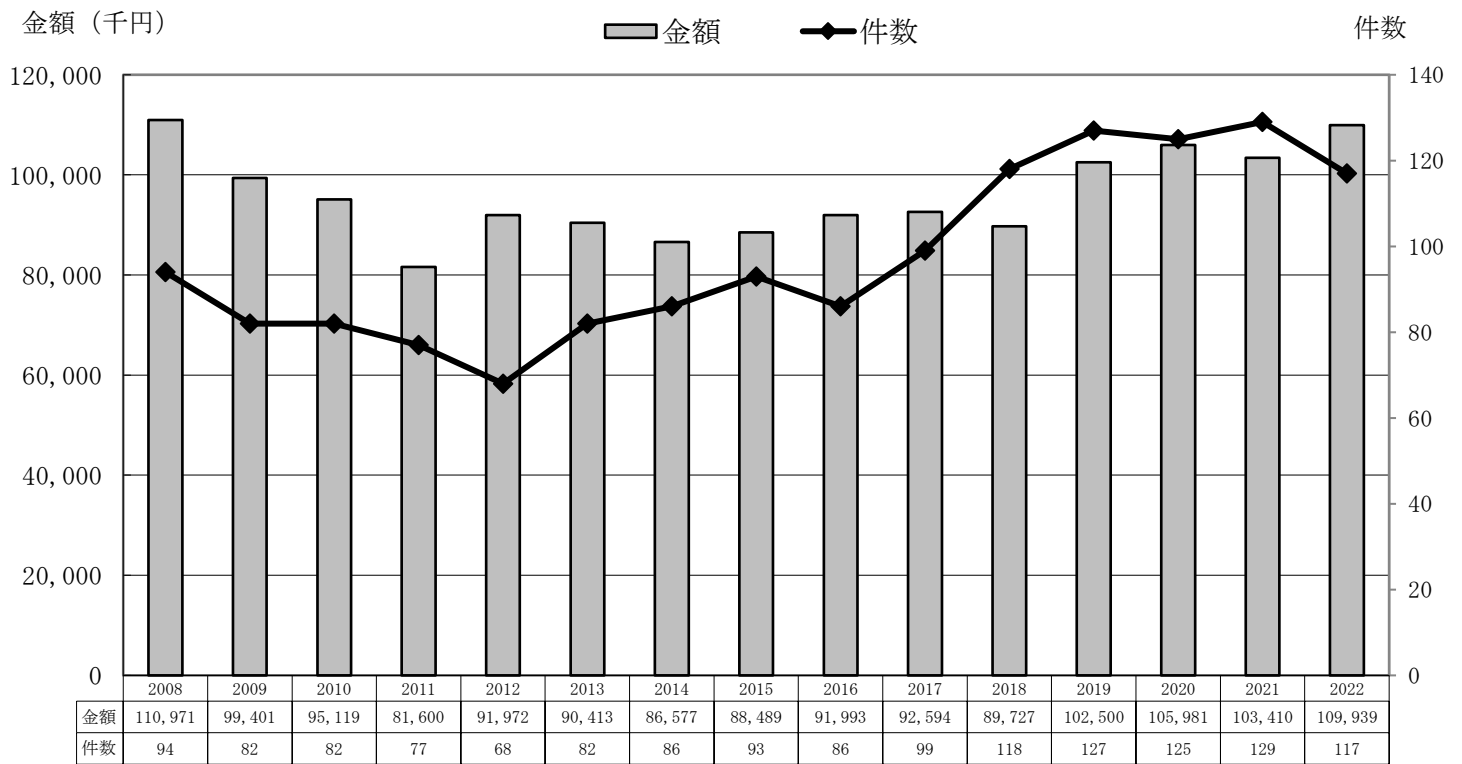
地域との関係をより緊密にするために、周辺自治体から推進員・推進協力員を派遣していただいています。推進員・推進協力員の役割は、各自治体および産業界におけるニーズを円滑に大学へ伝えることで、産学官連携を推進することです。

また、推進員・推進協力員合同会議には、北海道内の各行政機関等からオブザーバーとして参加協力をいただいております。

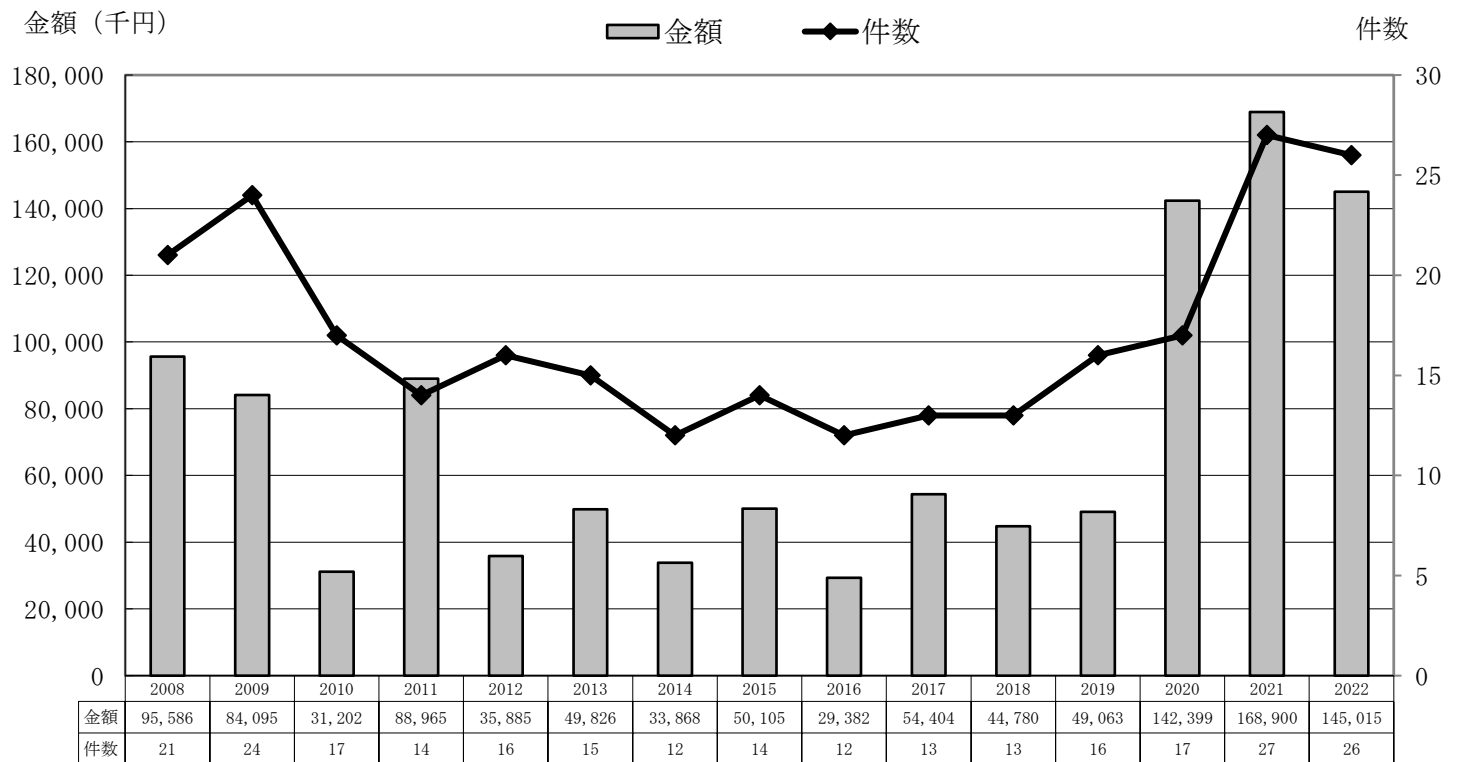
3) 共同研究等

共同研究・受託研究報告

共同研究

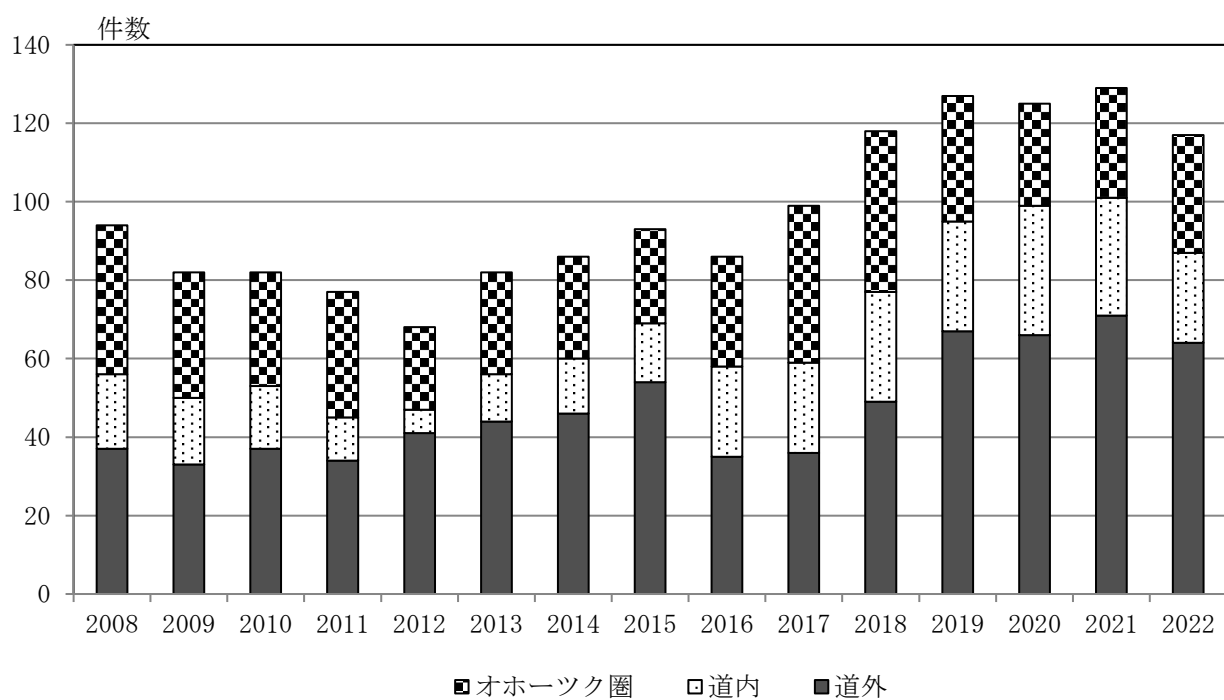


受託研究



共同研究件数の内訳

年 度	道 外	道 内	オホーツク圏	総 件 数
2008	37	19	38	94
2009	33	17	32	82
2010	37	16	29	82
2011	34	11	32	77
2012	41	6	21	68
2013	44	12	26	82
2014	46	14	26	86
2015	54	15	24	93
2016	35	23	28	86
2017	40	23	36	99
2018	49	28	41	118
2019	67	28	32	127
2020	66	33	26	125
2021	71	30	28	129
2022	64	23	30	117



2022 年度 共同研究受入一覧表 （※「所属」および「役職」の表記は契約時点のもの）

2022年度（令和4年度）の本学での共同研究実施件数は、117件であった。

そのうち、公開情報として101件を下記一覧表に掲載する。

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		
1	柴田 浩行	応用化学系	教授	超伝導体を用いた検出器の研究	日本電信電話株式会社 NTT 物性科学基礎研究所
2	小西 正朗	応用化学系	教授	低水温、短滞留時間条件下での生物処理に関する基礎調査	メタウォーター株式会社
3	早川 吉彦	機械電気系	准教授	新規事業開発のための教育手法に関する研究	株式会社さくら コミュニティサービス
4	藤井 享	社会連携推進 センター	センター長 ・教授	難着冰雪対策塗布剤の性能と現象に関する研究	株式会社フコク
5	松村 昌典	機械電気系	准教授	風力発熱システム用発熱装置の研究開発	株式会社ユタカ技研
6	早川 博	社会環境系	教授	北見市環境調査研究（大気、水質・生物、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類）	北見市
7	早川 博	社会環境系	教授	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究	北見市
8	星野 洋平	機械電気系	教授	重量物搬送装置のリチウム電池化における電力系の構築と評価	エクセン株式会社
9	南 尚嗣	社会環境系	教授	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	紋別市下水道事業
10	非公表	-	-	網走市における下水汚泥および放流水中成分の長期モニタリング研究	網走市公営企業
11	有田 敏彦	工学部	特任教授	オホーツク産ハーブ、ローズマリーの用途開発	株式会社伊谷商事
12	早川 博	社会環境系	教授	常呂川水系水質調査研究	常呂川水系研協保 全対策協議会
13	ラワンカル アビジット	機械電気系	准教授	鉄道車両における画像診断と CAD データを使用した検査システム	川崎車両株式会社 国立大学法人北海道大学 国立大学法人東北大学

2022 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		
14	小針 良仁	応用化学系	助教	天然資源の実用化を指向した利活用に関する研究（「ウルル甘草含有機能性有機化合物の効率的抽出方法の開発」から変更）	株式会社シロ
15	渡邊 達也	社会環境系	助教	積雪地帯の大規模岩盤すべりにおける簡易で高精度な小型衛星測位モジュールを用いた長期連続観測システムの構築	奥山ボーリング株式会社
16	川口 貴之	地域と歩む防災研究センター	教授	河床低下を受ける橋脚の変位モニタリングに関する研究	北見市/株式会社 ダイヤコンサルタント北海道支社
17	河野 義樹	機械電気系	准教授	破壊に強い延性二相チタン合金の組織設計原理の確立	一般社団法人日本鉄鋼協会 国立研究開発法人物質・材料研究機構 国立大学法人東北大学 国立大学法人横浜国立大学 国立大学法人熊本大学 国立大学法人東京海洋大学
18	吉田 孝	工学部	特任教授	スルホン化パルプ及び CNF の抗ウイルス性に関する研究	丸住製紙株式会社
19	岩館 健司	機械電気系	助教	AI（人工知能）を活用した玉葱高度選果システムの実用化に関する研究	シブヤ精機株式会社 きたみらい農業協同組合
20	吉澤 真吾	情報通信系	准教授	水中音響装置による同時多点測位技術の開発	五洋建設株式会社
21	鈴木 育男	機械電気系	准教授	気象データを活用したバレイシヨ疫病の初発前薬剤散布指示システムの開発	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
22	大野 智也	応用化学系	教授	非公表	非公表
23	吉澤 真吾	情報通信系	准教授	水中ドローン搭載型水中音響測位システムの開発	株式会社 SIX VOICE
24	藤井 享	社会連携推進センター	センター長・教授	道内（北見市）スマートコミュニティの IoT デジタルの利活用によるエネルギー・ベストミックス導入に関する研究	オホーツク新エネルギー開発推進機構
25	星野 洋平	機械電気系	教授	農用トラクターの自動操舵システムの開発	三菱マヒンドラ農機株式会社

2022 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		
26	林田 和宏	機械電気系	教授	ディーゼル機関の噴霧計測に関する基礎研究—燃焼解析に活かせる噴霧長・噴霧角・着火位置・蒸気濃度など噴霧特性の高温高圧場での計測手法	いすゞ自動車株式会社
27	吉川 泰弘	社会環境系	准教授	ジュエリーアイス出現時期推定手法の開発	株式会社福田水文センター 株式会社北開水工 コンサルタント
28	小西 正朗	応用化学系	教授	深海に生息する重金属濃縮細菌の探索	国立大学法人広島大学
29	浪越 毅	応用化学系	准教授	超分子膜の調製及び機能性中分子・低分子の分離精製への適用検討	大塚化学株式会社
30	小西 正朗	応用化学系	教授	乳酸菌培養における天然基材組成の影響解析 (2)	北海道糖業株式会社
31	村田 美樹	応用化学系	教授	多環芳香族炭化水素類の製造法検討	田岡化学工業株式会社
32	星野 洋平	機械電気系	教授	重量物搬送装置のシステム解析と多用途最適化に向けた制御系構築の研究 (2)	エクセン株式会社
33	川村 みどり	応用化学系	教授	Black metals decorated with surface receptors as high-potentiality materials for gas sensing	University of Chemistry and Technology, Prague /Polymer Institute of the Slovak Academy of Sciences/University of Opole - Faculty of Chemistry/Institute for Nuclear Research
34	桒井 文人	冬季スポーツ科学研究推進センター	センター長・教授	実データを利用した先進的カーリング戦術支援技術の研究	国立大学法人電気通信大学
35	浪越 毅	応用化学系	准教授	秋播き直播栽培に向けた、てん菜種子コーティング方法の開発 (2)	日本甜菜製糖株式会社札幌支社
36	吉澤 真吾	情報通信系	准教授	水中ドローン測位・運転制御システムに関する研究	株式会社 SIX VOICE

2022 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		
37	舘山 一孝	社会環境系	准教授	船舶周囲の海水特性及び波浪の観測手法実用化に関する研究	国立研究開発法人海洋研究開発機構 /国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所/ 国立大学法人東京大学 新領域創成科学研究所
38	舘山 一孝	社会環境系	准教授	雪氷光散乱特性とニューラルネットワークを用いた雪氷モニタリングシステム技術の研究開発	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 公立大学法人札幌市立大学
39	松村 昌典	機械電気系	准教授	住宅用 24 時間換気システムに関する研究	ケイ・マックイン ダストリー株式会社
40	小西 正朗	応用化学系	教授	浄水処理システムの運用効率化に関する研究	メタウォーター株式会社
41	舘山 一孝	社会環境系	准教授	AMSR3 用の海水厚推定アルゴリズムの開発と検証、航行支援への利用	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
42	井上 真澄	社会環境系	教授	高耐久・高耐寒グラウトおよび高耐寒無収縮モルタルおよび鉄筋出来形計測システムの研究開発	日本高圧コンクリート株式会社
43	黒河 賢二	情報通信系	教授	光ファイバ給電技術に関する検討	日本電信電話株式会社 アクセスサービス システム研究所
44	浪越 毅	応用化学系	准教授	旧式玉ねぎ移植機の有効利用に関する研究	有限会社トップアグリ
45	坂上 寛敏	機械電気系	助教	温泉に付随する可燃性天然ガスの活用に向けた情報基盤の構築	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
46	星野 洋平	機械電気系	教授	地域産業へのメカトロニクス技術普及教育教材の研究開発	一般社団法人北見工業 技術センター運営協会
47	富山 和也	社会環境系	准教授	舗装路面の新たな面管理手法の検討	大林道路株式会社
48	富山 和也	社会環境系	准教授	自転車道および歩行空間における路面評価指標の検討	大林道路株式会社
49	非公表	-	-	非公表	株式会社サムスン 日本研究所
50	邱 泰瑛	応用化学系	准教授	微粉碎化技術による新素材の開発	株式会社アルソア 慧央グループ

2022 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		
51	井上 真澄	社会環境系	教授	化学混和剤や補修剤を用いた高機能セメント系材料に関する研究	日産化学株式会社
52	梶井 文人	情報通信系	教授	行政機関におけるSNSデータ活用に向けた技術研究	株式会社日立ソリューションズ東日本
53	非公表	-	-	非公表	日野自動車株式会社
54	非公表	-	-	非公表	株式会社カネカ
55	小針 良仁	応用化学系	助教	オホーツク産和種ハッカの潜在的認知症予防効果	北見市産学官連携推進協議会
56	崔 希燮	社会環境系	准教授	スマート高炉スラグ微粉末の活用によるCO ₂ 排出低減型低炭素コンクリートの配合システム開発	オホーツク新エネルギー開発推進機構
57	木田 真人	社会環境系	准教授	クラスレートハイドレートのメタン貯蔵性に関する研究	オホーツク新エネルギー開発推進機構
58	南 尚嗣	社会環境系	教授	網走市能取污水处理施設における放流水中成分の長期モニタリング研究	網走市
59	吉田 裕	機械電気系	教授	PNC-FMS の引張・硬さに及ぼす熱時効後の転位密度に関する研究	国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構
60	舘山 一孝	社会環境系	准教授	津別峠の雲海の監視と発生予測および星空の監視	津別町
61	川口 貴之	社会環境系	教授	牛舎建設時における山砂利の評価	株式会社フジアグリラッシュ
62	梶井 文人	冬季スポーツ科学研究推進センター	センター長・教授	カーリングにおける高速動作の解析技術の開発	株式会社アイエンター
63	浪越 毅	応用化学系	准教授	玉ねぎ育苗用の培土に使用する固化材及び固化方法の検討	森産業株式会社
64	小西 正朗	応用化学系	教授	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究	北見市
65	山下 聡	社会環境系	教授	海底に排出する泥水の沈降に関する研究	五洋建設株式会社 三井海洋開発株式会社

2022 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		
66	小西 正朗	応用化学系	教授	小型活性汚泥法評価システムによる 汚水処理条件の検討	北見市
67	非公表	-	-	北見市における下水汚泥及び放流 水のモニタリング調査研究	北見市
68	坂上 寛敏	機械電気系	助教	スクラムミックスセンター臭気成 分の定量に関する研究	北見市
69	坂上 寛敏	機械電気系	助教	北見市浄化センター臭気成分の定 量に関する研究	北見市
70	佐藤 満弘	冬季スポーツ科学 研究推進センター	教授	アルペンスキーにおける競技用ス キーブーツの設計に関する研究	株式会社レクザム
71	井上 真澄	社会環境系	教授	Al-5Mg 溶射鉄筋の適用性に関する 検討（腐食リスクの検証）	NEXCO 西日本イノベーションズ株式会社
72	坂上 寛敏	機械電気系	助教	斜里町における環境試料（下水汚 泥・放流水）中の微量環境有害成分 の定量に関する長期的研究	斜里町
73	舘山 一孝	社会環境系	准教授	海氷が存在する海域における洋上 風力発電の成立性に関する共同研究	国立大学法人北海道大学
74	富山 和也	社会環境系	准教授	地方道路における効果的な舗装維 持管理手法の開発	北見土木技術協会
75	川口 貴之	社会環境系	教授	凍上により変状した補強土壁の性 能評価に関する研究	国立研究開発法人土木研究所 国立大学法人九州工業大学 一般社団法人日本 テールアルメ協会
76	邱 泰瑛	応用化学系	准教授	非公表	非公表
77	木田 真人	社会環境系	准教授	非公表	非公表
78	駒井 克昭	社会環境系	教授	海藻類による溶存無機炭素の吸 収・放出速度に関する研究	株式会社豊水設計
79	木田 真人	社会環境系	准教授	自然冷熱とクラスレートハイドレ ートを活用したバイオガスの CO ₂ 分離に向けた基礎研究	北海道ガス株式会社 技術開発研究所

2022 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		
80	プタシンスキ, ミハウ エドモンド	情報通信系	准教授	コーヒーをグリーン化する：化学成分分析及び人工知能を用いた環境及び消費者の好み双方を考慮したコーヒー飲料の淹れ方の最適化に関する研究	株式会社 1stTAG
81	星野 洋平	オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	センター長 ・教授	プラウ型長芋収穫作業機の自動化・省人・省力化に向けた研究（プラウ型長芋収穫作業機への土塊強制加振粉碎の応用）	帯広市農業施策推進委員会
82	大津 直史	応用化学系	教授	正常細胞が非自己細胞・物質に示す形態的反応及び制御に関する研究	国立大学法人北海道大学 大学院医学研究院
83	渡邊 達也	社会環境系	助教	積雪地帯の大規模岩盤すべりにおける簡易で高精度な小型衛星測位モジュールを用いたリアルタイム観測システムの構築	奥山ボーリング株式会社
84	吉澤 真吾	情報通信系	准教授	音源位置推定技術の研究	株式会社 IHI
85	星野 洋平	機械電気系	教授	非公表	非公表
86	川口 貴之	社会環境系	教授	地震で被災した札幌市清田区美しが丘地区における地下水位低下等対策の効果検証	札幌市
87	梶井 文人	情報通信系	教授	カーリング競技の戦略シミュレータに関する研究	株式会社 AIS 北海道
88	吉澤 真吾	情報通信系	准教授	SSMS 方式による水中音響通信測位システムの研究	三菱電機特機システム株式会社
89	プタシンスキ, ミハウ エドモンド	情報通信系	准教授	Developing a system for detection of suicidal reports on the Internet	SAMURAI LABS
90	川口 貴之	社会環境系	教授	補強土壁工法の施工品質管理・健全性評価・修復技術の高度化	東日本高速道路株式会社北海道支社
91	兼清 泰正	機械電気系	准教授	分析チップの実用化に関する研究	東洋濾紙株式会社
92	富山 和也	社会環境系	准教授	ワイヤレス路面平坦性測定装置の開発	株式会社 PROFICT LAB

2022 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		
93	浪越 毅	応用化学系	准教授	秋播き直播栽培に向けた、てん菜種子コーティング方法の開発 (2)	日本甜菜製糖株式会社
94	吉川 泰弘	社会環境系	准教授	十勝地域の冬季観光を活性化するためのジュエリーアイス出現予測と連携したデータ駆動周遊モデル提案システムに関する基盤研究	豊頃町
95	小西 正朗	応用化学系	教授	非公表	株式会社エーピーアイコーポレーション
96	浪越 毅	応用化学系	准教授	超分子膜・高分子膜の調製及びその機能性/有用性の探求・活用・事業化	大塚化学株式会社
97	酒井 大輔	情報通信系	准教授	透明海洋生物の光学特性の役割解明に関する研究	国立研究開発法人産業技術総合研究所 国立大学法人琉球大学 学校法人東海大学
98	星野 洋平	機械電気系	教授	AI 画像処理を用いた牛分娩兆候の検出法の開発と高精度化	株式会社トップファーム
99	星野 洋平	オホーツク農林水産工学連携研究推進センター	教授	カボチャ皮むきロボットの製品化と市場投入に向けた開発	北見工業技術センター運営協会
100	梶井 文人	情報通信系	教授	カーリング支援のためのデータサイエンス・スポーツ AI の研究	独立行政法人日本スポーツ振興センター
101	有田 敏彦	工学部	特任教授	詰め替えパウチの再利用に向けた暴露予備試験	北見エコスクール SDGs 協議会

4) 産学官連携活動

交流イベント等出展状況

No	開催日	イベント名	開催場所
1	9/27 (火)	北海道 理工系大学・高専及び公設試 新技術説明会	オンライン
2	10/4 (火) ～ 31 (月)	イノベーション・ジャパン 2022 ～大学見本市 Online	オンライン
3	10/20 (木) ～ 21 (金)	第 12 回おおた研究・開発フェア	東京都大田区 (羽田イノベーションシティ内 コンgresクエア羽田他)
4	10/26 (水) ～ 28 (金)	アグリビジネス創出フェア 2022	東京都江東区 (東京ビッグサイト)
5	11/10 (木) ～ 11 (金)	ビジネス EXPO 「第 36 回北海道技術・ビジネス交流会」	北海道札幌市 (アクセスサッポロ)
6	11/16 (水) ～ 18 (金)	異業種交流展示会メッセナゴヤ 2022	愛知県名古屋市 (ポートメッセなごや)
7	12/5 (月) ～ 9 (金)	オンライン版ネットワーク交流会& シーズ提供セミナー	オンライン
8	1/11 (水) ～ 16 (月)	地域を彩る食物語	北海道北見市 (コミュニティプラザパラボ)
9	1/26 (木)	北海道スマート林業 EXP02023	北海道札幌市 (北海道大学学術交流会館)

■イベント名: 北海道 理工系大学・高専及び公設試 新技術説明会

■日 時: 9月27日(火)

■会 場: オンライン開催

本イベントは、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)主催の大学、高等専門学校、国立研究開発法人等の公的研究機関から生まれた研究成果(特許)の実用化を目的に、新技術や産学連携に関心のある企業関係者に向けて、研究者自らが直接プレゼンする特許の説明会である。

本学からは、地球環境工学科の大津直史教授が材料分野において「レーザーを用いて空気中で施工するチタン表面窒化プロセス」、地球環境工学科の松村昌典准教授が製造技術分野において「血管のようなヌルヌル柔軟弾性管と簡単・瞬時に着脱できるコネクタ付きチューブ」と題して研究紹介のためのプレゼンテーション動画の公開などを行った。

■イベント名: イノベーション・ジャパン 2022～大学見本市 Online

■日 時: 10月4日(火)～10月31日(月)

■会 場: オンライン開催

本イベントは、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)主催の、全国の大学等機関の技術シーズを一堂に集め、創出された研究成果の社会還元と技術移転を促進し、産学連携を支援するために毎年開催されている、国内最大級の産学マッチングイベントである。長引くコロナ禍の影響により、今年度もオンライン開催となったが、日本全国123大学等から技術シーズ435件もの出展があった。

本学からは、情報通信分野において地域未来デザイン工学科の吉澤真吾准教授が取り組む「サブメータ級水中音響測位技術」を紹介した。オンラインを通じた出展となりましたが、多くの方に研究内容を知っていただく良い機会となった。

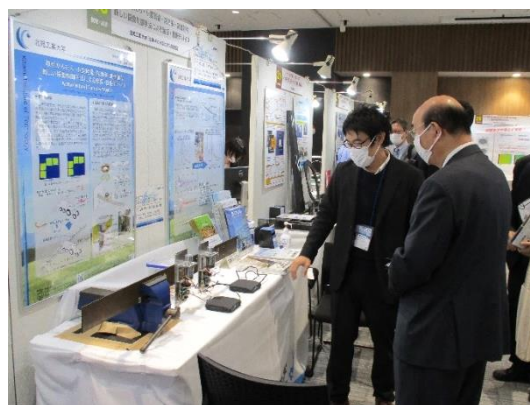
■イベント名: 第12回おおた研究・開発フェア

■日 時: 10月20日(木)・21日(金)

■会 場: コンgressクエア羽田およびPiO PARK(東京都大田区)

本イベントは、東京都大田区と公益財団法人大田区産業振興協会の主催する、来場者と出展者との産学連携や新製品・新技術開発等の促進を目的とした、国内外の大学・研究開発機関・企業による先端技術シーズが集結する「大田区」の展示会である。今年度は「羽田」を舞台に、過去最多の計108小間(94団体)が出展し、2日間の総参加者は1300人以上となった。

本学からは、地域未来デザイン工学科の星野洋平教授が「取付け簡単な新しい振動制御手法による高性能除振・制振デバイス」についてデモ機を展示して紹介した。また、大学院博士前期課程機械電気工学プログラム2年の坂田篤さんも本イベントに参加し、「回転型除振装置(Active Wheel Damper)の紹介」と題してプレゼンテーションを行った。今回、本学は初めての現地開催での参加であったが、大田区長はじめ多くの来場者に研究紹介をすることができ、とても貴重な機会となった。今後も本学の研究シーズを積極的に紹介し、産学連携の更なる強化に努めていきたい。



来場者へ説明する星野教授

■イベント名: アグリビジネス創出フェア2022

■日 時: 10月26日(水)～28日(金)

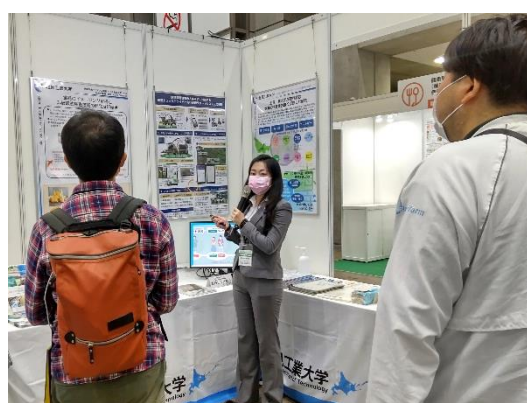
■会 場: 東京ビッグサイト(東京都江東区)

本イベントは全国の産学の機関が有する、農林水産・食品分野などの最新の研究成果を展示やプレゼンテーションなどで分かりやすく紹介し、研究機関間や研究機関と事業者との連携を促すことを目的とした技術交流展示会である。今年度は、全国の130の研究機関が最新の研究成果を出展した。

本学からは、地域未来デザイン工学科のFENG CHAOHUI 助教が取り組む「食品のイメージング解析と非破壊的検査技術の開発及び応用」について出展し、プレゼンテーションで紹介を行った。また、帯広畜産大学等と連携して実施している「大規模飼料生産体系における収穫作業の人手不足に対応する技術開発」や本学オホーツク農林水産工学連携研究推進センターの活動についての紹介も行った。



左から松本研究員、FENG 助教、
三枝准教授、長廻研究員



来場者へ説明する FENG 助教

■イベント名: ビジネス EXPO「第36回北海道技術・ビジネス交流会」

■日 時: 11月10日(木)・11日(金)

■会 場: アクセスサッポロ(北海道札幌市)

本イベントは、北海道内の産学官金の関係機関が協力し開催している北海道最大級のビジネスイベントである。今年度は、「イノベーション創造北海道～SDGs × デジタル新時代～」をテーマに、315機関の企業・団体・大学・研究機関が出展し、オンライン閲覧数を含めた来場者数は3万3千人弱となり過去最高記録となった。

本学は、令和4年4月に経営統合した小樽商科大学、帯広畜産大学と合同で出展し、三大学での取り組みに加え、本学の4つの研究推進センターの取り組みについて紹介を行った。本イベントは例年、本学出身者が就職後に活躍している企業等の出展や、来場者として本学のブースに立ち寄る卒業生もいて、技術広報のみならず多方面において貴重な機会となった。



本学の出展ブース

■イベント名: 異業種交流展示会メッセナゴヤ 2022

■日 時: 11月16日(水)～18日(金)

■会 場: ポートメッセなごや(愛知県名古屋市)

本イベントは、2006年にスタートした中京圏を中心とした自動車関連企業、名古屋地域のものづくり企業が出展参加する日本最大級の異業種交流展示会である。第17回目となる今回は、全国から800機関が出展し、3日間合わせて4万人を越える来場者が参加した。また、11月1日(火)～30日(水)の期間はオンライン展示会が同時開催された。例年、北海道庁は北海道ブースを設けていて、本学はこの北海道ブースに出展している。今年は本学を含めて北海道の企業・大学・自治体の17機関が出展した。

本学からは、地域未来デザイン工学科の富山和也准教授が大林道路株式会社とともに取り組む「三次元計測を活用した人に寄り添う歩行空間評価のデジタルトランスフォーメーション」について紹介した。今回紹介した研究に取り組む大学院博士前期課程社会環境工学プログラム1年の佐々木賢一郎さんが富山准教授とともに参加し、来場者へ説明を行うなど学生にとっても非常に貴重な経験となった。今後も積極的に出展し、道外の方々にも本学の研究活動を知っていただけるよう取り組んでいきたい。



北海道ブース



来場者へ説明する様子

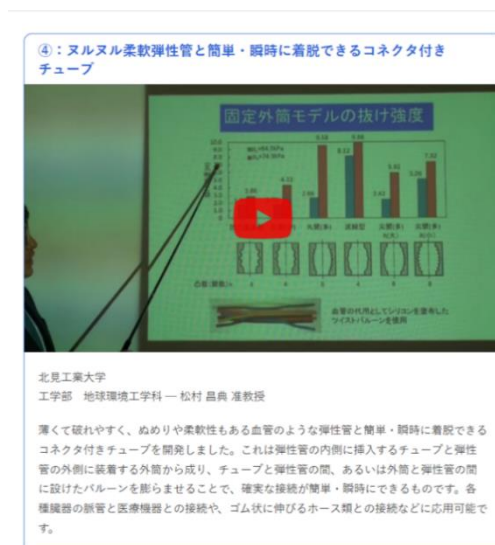
■イベント名: オンライン版ネットワーク交流会&シーズ提供セミナー

■日 時: 12月5日(月)～9日(金)

■会 場: オンライン開催

本イベントは、公益財団法人川崎市産業振興財団主催の大学等の研究シーズを紹介することにより新技術・新製品・新サービス開発のきっかけを提供し、企業の新たな事業展開を促すと共に、新技術や産学連携に関心のある企業関係者に対し出会いの場を提供するために開催されるイベントである。

本学からは、地球環境工学科の松村昌典准教授が工学・ものづくり系の分野で「ヌルヌル柔軟弾性管と簡単・瞬時に着脱できるコネクタ付きチューブ」についての動画配信を行った。オンラインの開催により、時間や場所を制限されることなくこれまで関わる機会のなかった企業等に研究内容を知っていただくことができ、大変有意義な機会となった。



松村准教授の動画掲載ページ

■イベント名: 地域を彩る食物語

■日 時: 1月11日(水)～16日(月)

■会場: コミュニティプラザパラボ(北海道北見市)

本イベントは、本学も共催機関として参画している北見市産学官連携推進協議会が主催するイベントで、今年で13回目を迎え、北見市と姉妹都市締結をしている高知市の「高知物産展」と同時開催し、多くの方にご来場いただいた。

初日には「アレも！コレも！地域の素材がたくさん！ Made in オホーツク！！」と題した地元食材活用講習会が開催され、本学からは地域未来デザイン工学科の霜鳥慈岳准教授が「ハッカ水蒸気蒸留残渣を原料とした緑色着色料の開発」と題して講演を行った。また、協議会の参画機関の事業概要等を紹介するパネル展示や開発商品の即売会が行われ、本学農林水産工学連携研究推進センターの研究について紹介した。さらに、今回は大学案内や農林水産工学連携研究推進センターをはじめとする4つの研究推進センターパンフレット、当センターのニュースレターなどの冊子を来場者にお持ちいただける場を設置し、地元の方々に本学の活動を知っていただける貴重な機会となった。



販売会の様子



セミナーにて講演を行う霜鳥准教授(右)

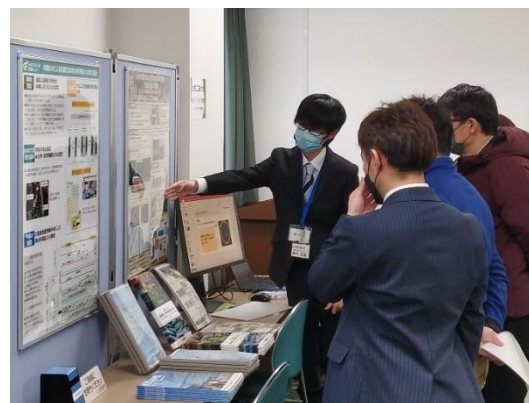
■イベント名: 北海道スマート林業EXP02023

■日 時: 1月26日(木)

■会場: 北海道大学学術交流会館(北海道札幌市)

本イベントは、スマート林業EZ0モデル構築協議会と北海道が主催の、北海道内のスマート林業の取り組みについて最新の情報を全国へ発信することを目的としたイベントである。北海道大学学術交流会館で開催され、オンライン配信も行われました。

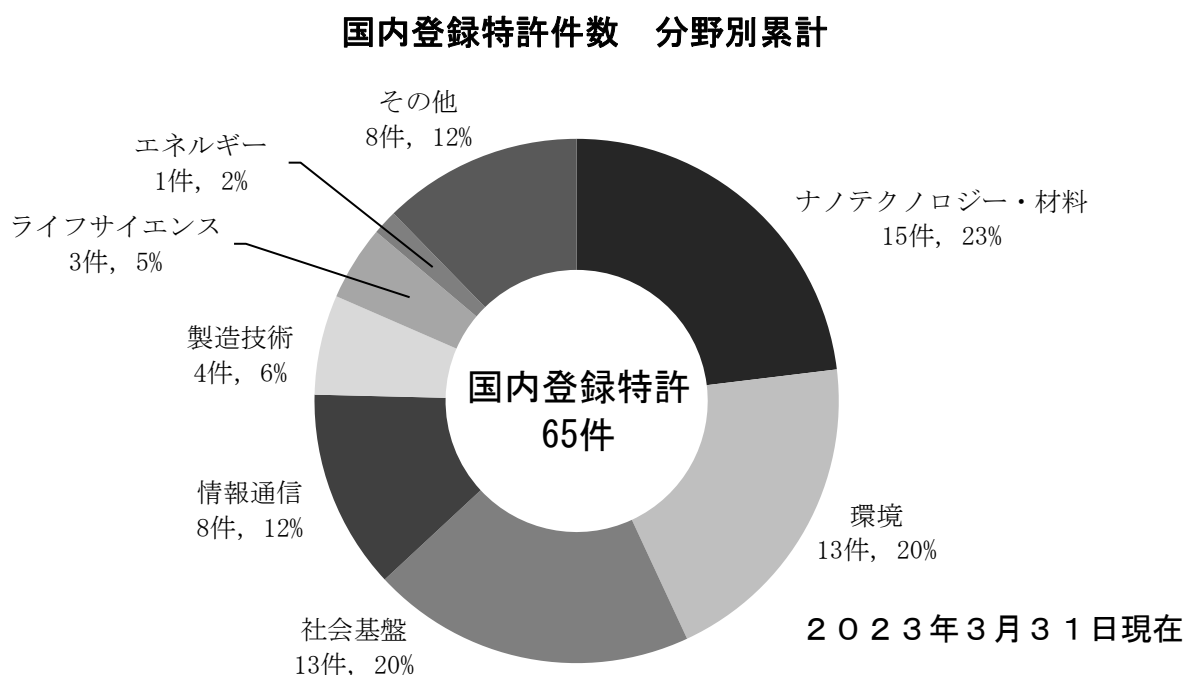
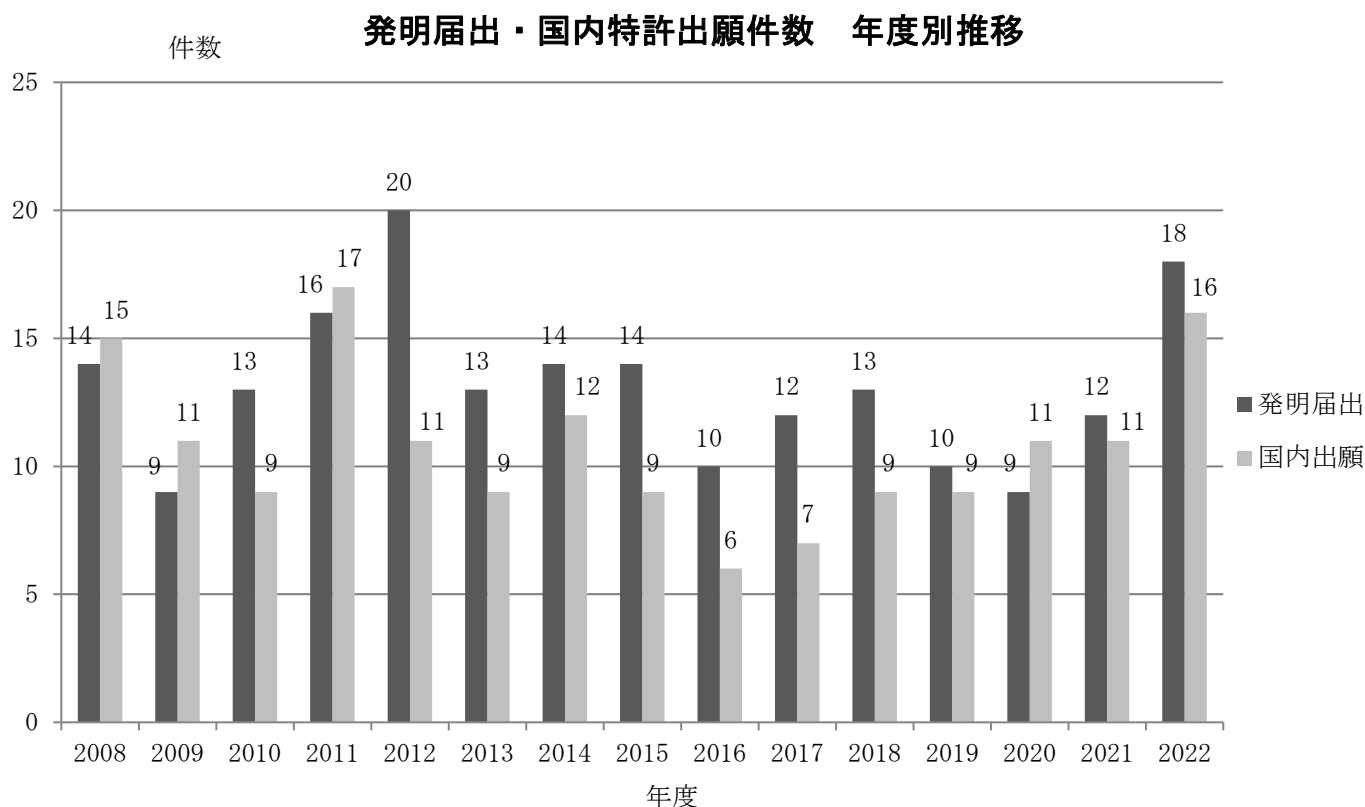
本学はチャレンジフィールド北海道とともに出展し、本学が取り組む推進計画「道内広葉樹の資源管理と効率的活用を目指したDX推進-道産広葉樹の価値ある活動へ(実施責任者: 社会連携推進センター三枝昌弘准教授、中心研究者: 地球環境工学科川口貴之教授)」について紹介した。当日は、大学院博士前期課程社会環境工学プログラム1年の鈴木佑基さんと三枝准教授が参加し、広葉樹林における最適な調査方法や、「川上(山元)」と「川下(木材加工業者)」の情報共有による新たなサプライチェーンの可能性について紹介を行った。



来場者へ説明する様子

5) 知的財産活動実績

本学では、研究の成果を知的財産として権利化し活用する活動を進めている。平成 21 年度からは研究者ごとの個別面談をベースに知的財産活動の重点を研究より上流過程にシフトしており、研究の早い段階から知的財産面からの支援を行っている。また、近年、国内出願数が 10 件程度で推移しており、基本的な知的財産活動の趣旨を啓発から質的向上へとフェーズアップさせている。国内登録特許件数は、所有する知的財産の評価・見直しを行っており、近年 60 件程度で推移している。その技術分野は、ナノテクノロジー・材料をはじめ、環境、社会基盤、情報通信、ライフサイエンスなど広範に及んでいる。



6) 北見工業大学発ベンチャー起業の創出

わが国では、超スマート社会（SOCIETY5.0）の実現に向けたデジタル・トランス・フォーメーション（DX）や、デジタル田園都市国家構想、大学発スタートアップ事業等、地域課題の解決や、新産業の創成に向けた期待が高まっている。

社会連携推進センターでは、北海道（オホーツク）のケイパビリティ（第1次産業・寒冷地工学・寒冷地スポーツ・大自然・観光・温泉・グルメ・複合的レジャー・アウトドア・昭和レトロ等）を活かした地域創生（Post COVID・ニューノーマル時代の新たな第6次産業創生）に向けた活動に注力している。

本年は、大学発スタートアップ事業の創出を目的として、JST「研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム 大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援」2022年6月～2028年3月に「共同機関」として参画した。

本取組みでは、本学地域マネジメント工学コース及び、全学の学生を中心とした起業活動支援策として、道内のベンチャー起業家や同分野の専門家による教育セミナーの実施及び、地元ベンチャー企業とのワークショップを3回開催した。具体的には、第1回、株式会社ミルクデザイン 代表取締役社長 山田 尚大様による「ミルクデザイン社の起業モデルについて」及び、日本政策金融公庫 さいたま支店 国民生活事業統轄 森本 淳志様による「北海道（オホーツク）における起業のポイント」に関する起業事例の紹介（令和4年10月開催、参加者18名）。第2回は、一般社団法人 未完 事務局長 西村 航様、IRENKA KOTAN 合同会社 代表社員 種市 慎太郎様による「技術とアイデアを地域に実装するために必要な考え方」（令和4年11月開催、参加者19名）。第3回は、株式会社 トーチ代表取締役 さの かずや様、IRENKA KOTAN 合同会社 代表社員 種市 慎太郎様による「今地域に求められている「ベンチャー」とは」の全3回のセミナーを開催した。

今後の課題としては、起業する際の基礎的知識付与をしっかりと行う必要があり、令和5年度開催のセミナーでは、学内や地域で共有できる教材の作成も併せてセミナーを開催・運営を行い、学内と地域に広く起業マインドを醸成して行きたいと考える。

また、社会連携推進センターが中心となり、本学や地域における起業家マインドを持つ人材のネットワーク作りを推進して行く他、札幌・北海道スタートアップ・エコシステム推進協議会への参画や、他の機関との連携強化に向けて積極的に推進していく。

7) 社会連携推進センター創立 30 周年記念事業

12 月 14 日（水）、本学講堂において社会連携推進センター創立 30 周年記念式典・フォーラムを開催し、オホーツク地域を中心とする北海道各地の産業界、行政機関、学術機関などから約 100 名の参加があった。

記念式典では、本学の鈴木聡一郎学長、国立大学法人北海道国立大学機構の長谷山理事長の挨拶の後、文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課産業連携推進室の篠原量紗室長にご講演いただいた。また、来賓を代表して経済産業省北海道経済産業局の岩永正嗣局長、北見市の辻直孝市長、北見商工会議所の永田裕一副会頭（株式会社北見ハッカ通商代表取締役）から祝辞が述べられ、本学社会連携推進センターの藤井享センター長から、センターの役割・機能の変遷とこれまで取り組んできた共同研究の推進、地域との連携強化、人材の育成などの活動実績を報告した。



鈴木学長



長谷山理事長



篠原室長



岩永局長



辻市長

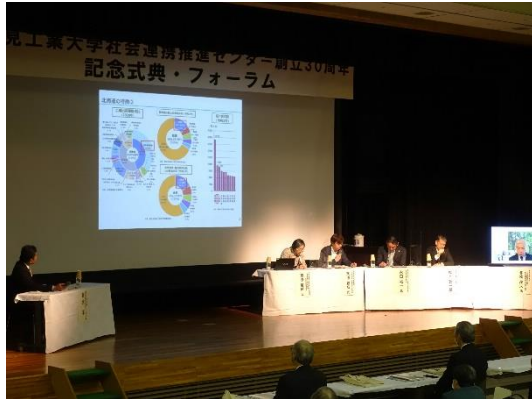


永田副会頭

フォーラムでは、「次なる 10 年へ！未来に向けた北見工業大学社会連携推進センターの課題とは」をテーマに、篠原産業連携推進室長、天池毅裕経済産業省北海道経済産業局地域経済部産業技術革新課長、永田裕一株式会社北見ハッカ通商代表取締役、各務茂夫東京大学大学院工学系研究科教授・産学協創推進本部副本部長、鈴木学長をパネラーに迎え、藤井センター長をコーディネータとして活発な討論を行った。今後北見工業大学が取り組むべき社会貢献活動について、研究と教育、それぞれのお立場から意見を頂戴した。研究面では、本学と地元企業との共同研究により生まれた技術の紹介を通じ、大学研究者が持つシーズを地元企業に提案することでより早く商品作りにつながっていくのではないかと、また地域の歴史をふまえたオリジナリティーな技術開発を進めることで地域の強みを生かすことができるのではないかと、さらには、工学的な研究を発展させていく中で、小樽商科大学や帯広畜産大学の知識と組み合わせることでビジネスとして昇華させることができるのではないかと期待を述べられた。教育面では、「地域の特徴を学び地域に活かしていくことのできる人材」の育成が地域において大きな価値を持つこと、専門性だけでなくそれを活かして、他の人

とどのように共同して実行していけるかという意識を持つことが大切、また、これが自分の解決したい問題だと思えるようなものを見つけることができるかという教育が重要であると話がなされた。

本式典・フォーラムは、北見工業大学のさらなる社会貢献活動の推進に向け、社会連携推進センターが強化すべき機能について確認し、意を新たにする貴重な場となった。



フォーラムの様子

8) 各種会議報告

◇社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議

会議名称	社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議	
開催状況	日 時	2022 年 11 月 22 日(火)
	北見工業大学 か ら の 話題提供	1 SNS における住民からの投稿データを効率的に活用するためのデータ収集方法
		2 カーボンニュートラルに係る取り組み (第 2 回北見工業大学 CN 勉強会)
		3 小樽商科大学及び帯広畜産大学との経営統合について
		4 北見工業大学における共同研究等並びに特許について
		5 北見工業大学学生の就職状況について
	推進員・協力員 か ら の 話題提供	1 ノーステック財団による研究開発助成事業について
		2 新事業向け制度融資 (日本政策金融公庫) について
		3 HACCP・食品安全管理プログラム 札幌セミナーについて
		4 新エネルギーセミナー(オホーツク新エネルギー開発推進機構)の開催について

◇北見工業大学社会連携推進センター推進協議会

会議名称	北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会	
開催状況	日 時	2022 年 4 月 20 日(水) (書面による開催)
	審議事項	1 報告第 1 号 令和 3 年度事業報告
		2 報告第 2 号 令和 3 年度決算報告
		3 報告第 3 号 令和 3 年度監査報告
		4 議案第 1 号 令和 4 年度事業計画(案)
		5 議案第 2 号 令和 4 年度予算(案)

◇北見市産学官連携推進協議会

会議名称	北見市産学官連携推進協議会	
開催状況	日 時	2022 年 5 月 16 日(月)
	審議事項	1 報告第 1 号 令和 3 年度事業報告について
		2 報告第 2 号 令和 3 年度決算報告について
		3 報告第 3 号 令和 3 年度監査報告について
		4 議案第 1 号 令和 4 年度事業計画(案)について
		5 議案第 2 号 令和 4 年度予算(案)について
		6 役員改選について

◇社会連携推進センター運営会議

会議名称	第1回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	2022年4月14日(木) (メール審議)
	審議事項	1 社会連携推進センター2021年事業報告(案)及び2022年度事業計画(案)について
		2 社会連携推進センター推進協議会寄附金に係る2021年度決算(案)及び2022年度予算(案)について
		3 社会連携推進センター推進協議会令和4年度総会資料について

会議名称	第2回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	2022年5月31日(火) (メール審議)
	審議事項	1 社会連携推進センターの学長裁量経費申請について
		2 令和4年度社会連携推進センター利用申請について
	報告事項	1 美幌町との包括的連携に係るキックオフシンポジウムの開催について
		2 オープンイノベーションセンターの設置スペースについて
		3 北見工業大学社会連携推進センター推進協議会令和4年度総会について
		4 北見市産学官連携推進協議会令和4年度総会について

会議名称	第3回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	2022年10月31日(月) (メール審議)
	審議事項	1 令和4年度社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議の開催について
	報告事項	1 社会連携推進センター30周年事業について
		2 令和4年度予算の執行状況について
		3 センター施設の利用状況について
		4 社会連携推進センター運営会議委員の変更について

会議名称	第4回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	2023年3月7日(火)
	審議事項	1 令和5年度社会連携推進センター客員教授について
		2 令和5年度社会連携推進センター利用申請について
	報告事項	1 北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワークについて
		2 令和4年度社会連携推進センターの活動について

9) 2022 年度 活 動 日 誌

- 4 / 6 (水) 第3回美幌町定例連携探索会議
- 4 / 16 (土) DX時代の地域創生フォーラム
- 4 / 20 (水) 令和4年度北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会
- 4 / 27 (水) 第4回美幌町定例連携探索会議
- 5 / 12 (木) オープンイノベーションセンター運営会議
- 5 / 16 (月) 令和4年度北見市産学官連携推進協議会
- 5 / 19 (木) 第5回美幌町定例連携探索会議
- 5 / 20 (金) 令和4年度北見地域企業立地促進協議会総会
- 5 / 22 (日) 北海道国立大学機構発足記念フォーラム～「実学の知の拠点」形成を目指して～
- 5 / 23 (月) オープンイノベーションセンター知的財産部門会議
- 5 / 24 (火) オホーツク産学官融合センター運営委員会
- 5 / 27 (金) オープンイノベーションセンタービジネス開発部門会議
- 5 / 30 (月) 北見商工会議所経営発達支援事業評価委員会
- 5 / 31 (火) チャレンジフィールド北海道第1回参画機関会議・第1回グロースチーム会議
- 6 / 3 (金) 令和4年度第1回北見市中小企業振興審議会
- 6 / 7 (火) 第6回美幌町定例連携探索会議
オープンイノベーションセンター管理運営部門会議
- 6 / 16 (木) 第1回 R&B パーク札幌大通サテライト (HiNT) 運営協議会
- 7 / 5 (火) オープンイノベーションセンター管理運営部門会議
- 7 / 12 (火) オープンイノベーションセンター知的財産部門会議
- 7 / 19 (火) オープンイノベーションセンター管理運営部門会議
- 7 / 28 (木) 北海道科学技術審議会北見・網走地域懇談会
- 7 / 30 (土) 北見工業大学と美幌町との包括的連携協定締結 キックオフシンポジウム
- 8 / 1 (月) 第6回帯広畜産大学 産学官金連携交流会 mini～エネルギー編～
オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 8 / 3 (水) 「北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク」
第1回アントレ人材育成部会・第1回エコシステム形成部会
- 8 / 9 (火) 「北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク」
第1回起業推進部会・第1回起業環境整備部会
オープンイノベーションセンター研究推進部門会議
- 8 / 19 (金) オープンイノベーションセンター知的財産部門会議
- 8 / 22 (月) オープンイノベーションセンタービジネス開発部門会議
- 8 / 24 (水) チャレンジフィールド北海道第2回グロースチーム会議
令和4年度第2回北見市中小企業振興審議会
- 9 / 2 (金) 第1回北海道科学技術審議会
- 9 / 20 (火) 美幌町自治会連合会交通安全部会視察研修
- 9 / 20 (火) 第7回美幌町定例連携探索会議
- 9 / 26 (月) オープンイノベーションセンター管理運営部門会議

- 9 / 27 (火) 北海道理工系大学・高専及び公設試 新技術説明会
- 10 / 4 (火) オープンイノベーションセンター知的財産部門会議
- 10 / 9 (日) 大学発ベンチャー/北海道・オホーツクアントレプレナーシップ・セミナー①
- 10 / 14 (金) 山口大学知的財産教育研究共同利用拠点運営委員会
- 10 / 18 (火) オープンイノベーションセンタービジネス開発部門会議
- 10 / 19 (水) 「北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク」
第1回起業推進部会・第1回起業環境整備部会
- 10 / 20 (木) 第12回おおた研究・開発フェア
- 10 / 24 (月) オープンイノベーションセンター管理運営部門会議
- 10 / 26 (水) アグリビジネス創出フェア 2022
北海道地域大学等知的財産部門連絡会議
つながる特許庁 in 札幌
- 11 / 10 (木) ビジネス EXPO「第36回 北海道技術・ビジネス交流会」
- 11 / 15 (火) 札幌・北海道スタートアップエコシステム推進協議会総会
- 11 / 16 (水) オープンイノベーションセンタービジネス開発部門会議
- 11 / 18 (金) 第2回北海道科学技術審議会
北見市技能普及実行委員会
- 11 / 21 (月) オープンイノベーションセンター管理運営部門会議
- 11 / 22 (火) 社会連携推進センター令和4年度推進員・協力員合同会議
- 11 / 25 (金) 大学発ベンチャー/北海道・オホーツクアントレプレナーシップ・セミナー②
- 12 / 5 (月) オープンイノベーションセンター管理運営部門会議
- 12 / 9 (金) オープンイノベーションセンター知的財産部門会議
- 12 / 12 (月) チャレンジフィールド北海道第3回グロースチーム会議
大学発ベンチャー/北海道・オホーツクアントレプレナーシップ・セミナー③
- 12 / 14 (水) 北見工業大学社会連携推進センター創立30周年記念式典・フォーラム
- 12 / 19 (月) オープンイノベーションセンター管理運営部門会議
- 1 / 10 (火) オープンイノベーションセンター管理運営部門会議
- 1 / 11 (水) 地域を彩る食物語
- 1 / 23 (月) オープンイノベーションセンター管理運営部門会議
北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク進捗報告会
- 1 / 26 (木) 北海道スマート林業 EXPO2023
- 1 / 27 (金) 令和4年度産学官連携フォーラム
- 2 / 3 (金) 令和4年度第3回北海道科学技術審議会
- 2 / 6 (月) オホーツク産学官融合センター事務局会議
オープンイノベーションセンター管理運営部門会議
- 2 / 8 (水) 第8回美幌町定例連携探索会議
- 2 / 13 (月) 大学・高専発スタートアップ指導・支援人材育成プログラム
- 2 / 16 (木) 令和4年度陸別町社会連携連絡協議会
- 2 / 17 (金) 令和4年度第2回北見市雇用創造講義会総会
環境広場ほっかいどうプロジェクト会議

- 2 / 20 (月) オープンイノベーションセンター管理運営部門会議
大学・高専発スタートアップ指導・支援人材育成プログラム
- 2 / 21 (火) 令和4年度北見市技能普及啓発事業（食の技能普及講習会）
- 2 / 22 (水) 第1回地域連携プラットフォーム構築等に係るタスクフォース
- 2 / 24 (金) チャレンジフィールド北海道地域課題・ニーズ検討会
チャレンジフィールド北海道第4回グロースチーム会議
オープンイノベーションセンター知的財産部門会議
- 2 / 27 (月) 大学・高専発スタートアップ指導・支援人材育成プログラム
第2回「2050年のオホーツクを考える」オンラインミーティング
～新たな北海道総合開発計画策定に向けて～
- 2 / 28 (火) DEMO DAY 2023
- 3 / 3 (金) 北海道中小企業家同友会オホーツク支部連携プログラム会議
- 3 / 6 (月) オープンイノベーションセンター管理運営部門会議
- 3 / 8 (水) JST 産学コーディネーター育成プログラム委員会
- 3 / 10 (金) 令和4年度 JST 産学官連携ジャーナル発行推進委員会
- 3 / 14 (火) オープンイノベーションセンタービジネス開発部門会議
- 3 / 24 (金) 第2回山口大学知的財産教育研究共同利用拠点運営委員会
- 3 / 27 (月) 北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワークプラットフォーム推進会議
- 3 / 29 (水) 令和4年度オープンイノベーションセンター全体会議

2. 付録

- ・センター関連規程
- ・技術相談申込書

■ 社会連携推進センター関連の規程 ■

1. 北見工業大学学術推進機構規程
2. 北見工業大学社会連携推進センター要項
3. 北見工業大学社会連携推進センター利用内規
4. 北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員要項
5. 北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進協力員内規
6. 北見工業大学社会連携推進センター運営会議内規

規程の詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

https://education.joureikun.jp/nuc_hokkaido/

年 月 日

所属：

役職：

氏名：

住所：〒

TEL：

FAX：

技 術 相 談 申 込 書

〈相談事項〉

〈 申込書送付先 〉

〒090-0013 北海道北見市柏陽町603番地2

国立大学法人北海道国立大学機構北見工業大学学術推進機構 社会連携推進センター

TEL：0157-26-4161

FAX：0157-26-4171

E-mail：chiiki@desk.kitami-it.ac.jp

北見工業大学 社会連携推進センター年報第21号 2022年度

発行日 2023年 8月

発行者 国立大学法人北海道国立大学機構北見工業大学学術推進機構 社会連携推進センター
〒090-0013 北海道北見市柏陽町603番地2

TEL : 0157-26-4161

FAX : 0157-26-4171

E-mail : chiiki@desk.kitami-it.ac.jp

URL : <https://www.crc.kitami-it.ac.jp/>

